

喜多方・八尾チーム、相次いで現地入り

M1 記者によるプロジェクト初参加ルポ

ゴールデン・ウィークこそ、プロジェクト活躍の舞台。八尾プロジェクト・チームは5月3、4日の二日間、3日の曳山祭りに合わせて現地へ（参加：岡村祐D3、M2楊恵亘、M1後藤健太郎・伊藤雅人・塩澤諒子・筒井直央・ウチエンプライトボツソ）。一方、喜多方チームは、野原卓助手自ら車を運転して、8人（野原助手以下、M2柴田直・鈴木智香子・早坂勝一、M1鄭一止・石井宏典・奥田紘子・横田俊介）が5月6、7日に訪喜。マガジン編集部のM1が、「手ごたえ十分」の初現地・印象記を送る。

喜多方の青雲に誓う M1 石井 宏典

磐梯山をかすめる峠道の眼下、
不意にぱっと開けた会津盆地のまちなみ。
迎えてくれた遅咲の八重桜。
とりどりの装いを見せる数多の蔵。
静かに老いるレンガ窯。
そして、地元の方々と交わした、
挨拶の乾杯と街の未来に対する熱い想い—。

帰りの車中、喜多方で見た美しい景と体験した時間を反芻し、ひとつひとつ胸の中に整理し終えた時、これはきっと充実した1年が待っているぞ、という鮮やかな予感を得ました。机上で都市計画を学んで2年半。「責任」という重い荷と引き換えに、ようやく、そして少しだけでも、知識を社会に還元できる舞台をいただけ



■蔵と喜多方チーム

た、という気持ちです。
初心に灯る期待を糧に、まちづくりの先輩方に学び、新メンバーと協力しつつ、これから精一杯力をつくしたいと思います！

曳山に惹かれて、八尾 M1 塩澤 諒子

今回の目的は3日に行われる八尾の「曳山祭り」の調査をメインにし、初めて八尾の町に触れるM1はその全体像をつかむというものだった。これから密に関わっていく、言わば第二の故郷になる町との初対面に期待と不安を抱えて八尾に足を踏み入れた。1日中歩き回り、祭事の空間の使い方や人々の行動を調査。昼と夜では大きく印象も異なり、また次の日は祭りの余韻を残しつつも日常に戻っていく。



■M1、いざ石垣に見参！

2日目は地元の商工会の方との顔合わせとミーティングを行い、今回の行程を終えた。これからが本番、自分自身楽しみつつデザイン研の醍醐味であるプロジェクトに責任をもって関わっていききたい。

●中島・酒井コラボ講演、椽内吉胤を語る●

5月12日、東京農業大学・「食と農」の博物館において、講演会「美しい東京へ—都市美の先駆者・ジャーナリスト椽内吉胤に学ぶ—」が開催（主催：美しい東京をつくる都民の会）され、当研究室の中島直人助手、今春修了した酒井憲一元研究生（当マガジン・前編集長）の二人が講師として語った。

前半、博士論文でも椽内に一章を充てた椽内研究の第一人者・中島助手が、椽内と時代の関係をわかりやすく説明。「江戸は、満ち足りた顔で人々が歩き、緑あふれるまちだった。しかしその「原景」は維新以降、近代化のなかで急速に失われてゆく。田園都市・盛岡に生まれ育った椽内は、震災後の東京で敢然、都市美協会を立ち上げて都市美理想の実現に邁進した…。」

一方、酒井氏は、同じジャーナリストとして、そして自他ともに認める「椽内のうまれかわり」として、人間・椽内の像を活写した。「文学を修めて後、工学を独習した椽内、著書『都市計画』は、テーマは工学でも一種の詩集。転変経て、想う故郷に帰らざる「素浪人」だましい。人間の悲哀と、都市への愛。景観法施行成った今こそ、椽内再評価のとき」。50人を超す聴衆が、デザイン研コンビの講演に聞き入った。（坂内）



■講演風景 左から、椽内、中島、酒井

総力戦！連日連夜の作業と議論 新宿景観プロジェクト経過報告

近年稀に見る巨大プロジェクト・「新宿」（区景観計画改訂へ向けた調査と提案）が、研究室を席捲している。発足時に早速、「筆筍」「落合」各チームごとに、図書館資料収集・住宅地図つなぎ・資料読み込み、と分業体制が敷かれ、現地調査後は区内ですらに担当地域に分かれて作業。PC 上の「筆筍」「落合」フォルダは、競うように容量がふくれあがり、M1メンバーは主戦力として、もはやためらいなく徹夜をくりかえす。5月11日、新宿区の職員他を迎えて、西村幸夫教授への中間報告ミーティングが行われたが、息つく間もなく、17日の区景観審議会・小委員会へ向けた資料作成へのスパートが開始された。

＜参加者の声＞「景観の計画を練るに際して歴史をさかのぼって調べる、という作業に大きな新鮮味を覚えている」（落合チーム・M1）●「ファイルの重さにPCが悲鳴をあげているけれども、作業はおもしろい」（筆筍チーム・M1）●「毎日のように落合に足を運んで、若干疲弊した。5月17日以降の）後半戦に向けて態勢を立て直してゆきたい」（落合チーム・M1）



■日付は回る、されど帰らず
女性3人、深夜の奮闘



■5月11日・プレゼン
落合資料を前に野原助手



■筆筍地区模型
平林直 M1 の力作



■二人チームで、
がんばるぞ



◆『鞆雑誌 2006』発刊・頒布中 2000・2001に次いで3巻め

鞆チーム悲願の『鞆雑誌』が、ついに完成。2005年度に取り組み、2回の「まちづくり博覧会」で地元とその成果を問うた「空き家」調査の結果を中心に、106ページの冊子となった。

5年ぶりの発刊、といっても、その間、活動が途絶えていたわけではない。2000年度からの初代・鞆メンバーである中島助手が「あとがき」で述べているように、2004年度にも冊子作成が試みられ、あと一歩のところで見送りとなった経緯があったのだ。内容的には、3部構成中の「第2部 空き家再生インタビュー」の多くと、「第3部 空き家再生提案」の半分ほどは、2004年度の活動の成果に依っている。2004年度も編集作業に加わった西原まり M2は、「一昨年度来の「宿題」を果たした、という感じでしょうか。気持ちを新たに、今年度の活動を進めてゆけそうです」と、感慨深げに語った。

※『鞆雑誌 2006』入手希望の方は、下記までメールでお申し込み下さい。郵送にてお送りしますので、同封の振込用紙にて、実費（印刷・製本代：700円＋送料：300円＝1000円）をお振込み下さい。

都市デザイン研究室・有志鞆チーム：tomo@ud.t.u-tokyo.ac.jp

★はむー&真理さんゴールイン★

2006年5月7日、都市デザイン研08・06の安藤真理さん（2003年修了）と片岡公一君こと、はむー（2004年修了）とが結婚式を挙げました。神楽坂プロジェクトをきっかけにお付き合いを始めた2人が結婚式の舞台に選んだのは、真理さんが育ち、はむーが敏腕都市計画コンサルとして腕を振るう、横浜は日本大通りのアルテリーベでした。

2次会はお二人の落ち着いた雰囲気にとったりの石川町の山手ヨットクラブで17時から行われ、研究室から同期・先輩・後輩、当時&現在の助手が参加し、ミニ同窓会の様相を呈しました。真理さん、はむーのサークルや高校のお友達、職場の同僚の方々とともにビンゴゲームなどを楽しんだ後は、研究室ゆかりの参加者で3次会と相成りました。都市が育んだ2人の愛。これからは、固く結ばれた2人が都市を育てていくことでしょう。（D3 田中暁子）



■研究室同期で花嫁、花婿を囲む

編集後記 流浪果てしなく、栄光にはほど遠かった椽内の「フリーター」人生からは、弱さを抱え込みつつ何かを成してゆこうとする人間の真摯が伝わるからこそ、中島・酒井のような熱いファンがつく。「新宿」では、殺人的スケジュールのなか、メンバーの人間くささがちらほら垣間見えるようになってきた。これぞプロジェクトの醍醐味、というやつか。わだかまりならば、感情のおもむくまに罵倒応酬してはき出すも時には一興、後の酒肴と思えばよろし。さて、遅れに遅れている担当の作業に戻らねば…（坂内）